

令和6年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第5回「いまさら聞けないSDGs 第二弾」（テーマ：SDGs）

- 実施日時 令和6年8月8日（木）13時30分～16時30分
□実施場所 公益財団法人 東京都環境公社 会議室
□受講者数 12名
□実施方法 対面
□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. 講師からの講義・体験

（1）講義、グループワーク

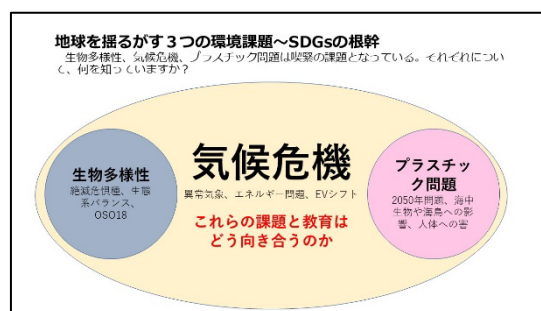
環境教育は「教科」ではないため広がりづらい点がある。また学校ごとにカリキュラムや置かれた状況などが異なっており、環境教育を実施することが難しい状況にある。しかし、実は「総合」やその中で実施する「環境教育」が新世界を切り開く砦になっている。

先生方の「これから生きていくための不安」を書き出し、グループで共有した。お金の問題、地球温暖化、家族・介護など、異動のことなどが回答として挙がった。

自分たちもこれだけの不安を持っている。児童よりも少し進んだ大人として、教員としての人としての良心、消してはならない使命感を持って、子どもと一緒に悩むべきではないのか。

現在、地球を揺るがす3つの環境課題（生物多様性、気候危機、プラスチック問題）がある。特に気候危機は喫緊の課題である。2021年IPCC AR6では、人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことは「可能性が極めて高い（95%以上）」から「疑う余地がない」へ修正された。また、IPCCが2018年に出した「1.5度特別報告書」で「30～52年に1.5度上昇」としていたよりも、「予想が早まった」。

また、地球温暖化が学校教育活動に与える影響は大きく、支障をきたす学校教育活



温暖化が学校教育活動に与える影響

気温上昇で支障をきたす学校教育活動

- ・教室で・・・エアコン常時稼働、コロナ禍の換気
よすよす温暖化を招く???、暑熱低下
- ・校庭で・・・体育の中止、授業ができない
- ・プールで・・・晴れているのにプールがとせない、プールサイドに水筒
- ・休み時間で・・・遊びの制限、ストレス
- ・登下校で・・・タオル、ネッククーラー、帽子、日傘等の携行指導、
落雷の注意、下校待機

井筒口の熱中症危険度計
2023.7.13 13:15
通光寺小学校

動が年々増加してきているため、児童も教員も地球温暖化は体感しているはず。

右図それぞれの目標の関連を現した、SDGsウェディングケーキモデルを示す。目標13、14、15の環境関連の目標は一番下に位置している。これは、地球環境に関する課題は、これからの世界の行く末を考える上で基本となり、これなしでは考えることはできないと言って良い中心的課題であることを表している。つまり地球を揺るがす3つの環境課題（生物多様性、気候危機、プラスチック問題）はSDGsの視点からも重要な課題であることが分かる。



では、どのように環境教育を実施していけばいいのか。

そこで、先生方の「SDGsを学習で取り上げているか、SDGs関連の悩み」を書き出し、共有した。すぐに結果が出ない、ジェンダーの問題など解説、反応が難しいものがある、自分たち先生の知識が少なく不安というような意見が出た。

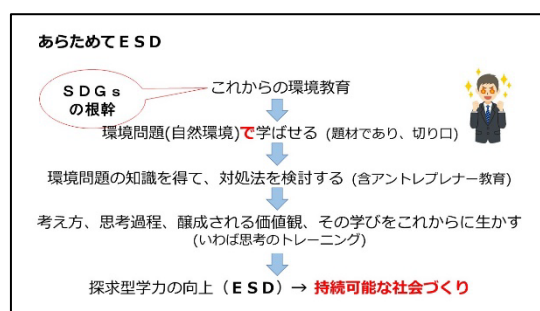
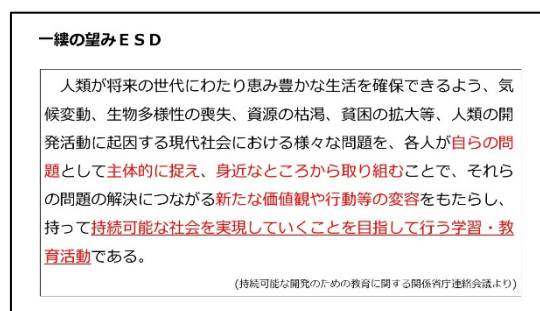
例えば「脱炭素化」は少しの努力では達成できない目標であり、社会の「大転換」が起きる必要がある。そのようなことは起きないと考えてしまいがちだが、産業革命、奴隷制廃止、禁煙等、今まで社会の「大転換」は起こってきたことから、これからも起きる可能性は十分にある。その社会の「大転換」を起こす一縷の望みが持続可能な開発のための教育（ESD）である。

ESDは、課題を解決し、未来を創造しようという志です。

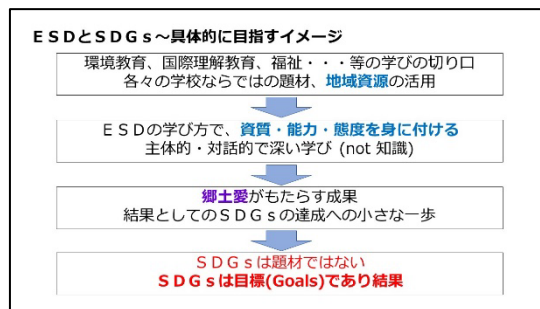
「自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組む」、「新たな価値観や行動等の変容」、「持続可能な社会を実現していく」は、まさに、必要不可欠な教育活動である。

また、「環境教育を学ぶ」ではなく、「環境教育で学ぶ」という視点です。

環境問題の知識を能動的に自分たちで得た後、解決に向けてどう対処していけばよいか考えます。教育における役割は、解決「できる」ことを考える資質・能力・態度を育成することだと考えます。



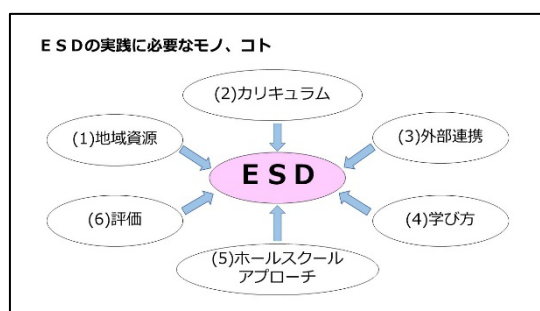
そんな人間を育成していくことこそが、
持続可能な社会への私たち教師の役割だ
と思う。



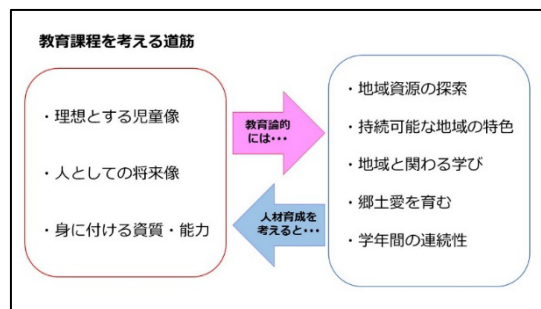
(2) ESDカレンダー作り (グループワーク)

持続可能な社会を構築するための資
質・能力・態度の獲得には、欠かせない
要素がある。

これら6つの要素を用いてESDカレ
ンダー作りを行った。



青枠から赤枠を育てていくために、各学校に合わせたＥＳＤをからめた年間スケジュールの立て方を、ＥＳＤカレンダー



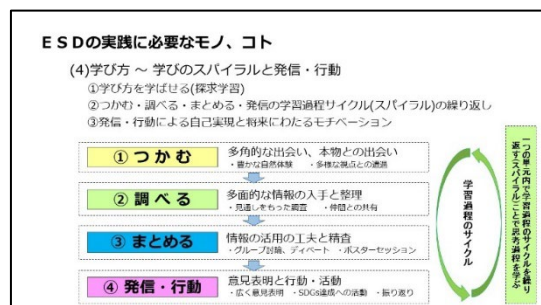
最初に、各班に分かれて班内でカレンダーを作る1校を決める。

そして、下記の順でカリキュラムを作成する。

- (1) テーマ(幹)を決める
- (2) 関連する事物・事象は何か
- (3) カリキュラムの何と関連付けられるかテーマ(幹)を決める

[illegible]

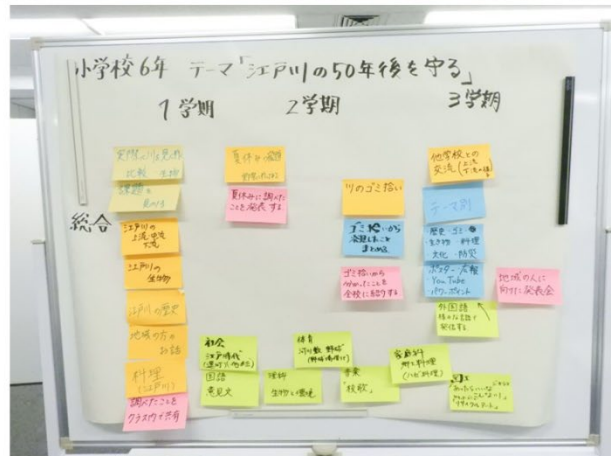
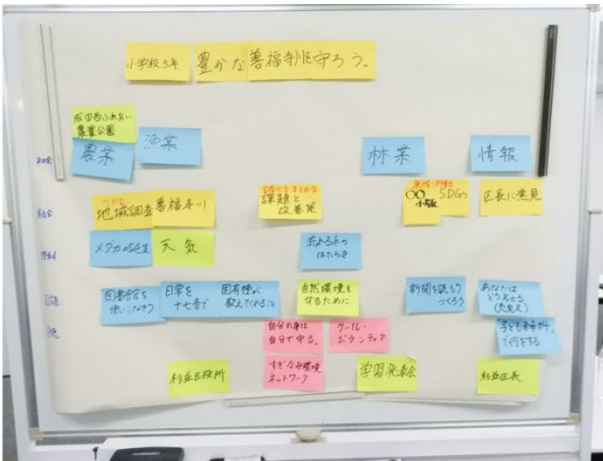
カリキュラムを組む際は、学習過程のサイクルを何度か行うようにする、年度終わりは何かしらの発信・行動を起こさせるスケジュールにすることに気を付ける。(右図)



今回はここまでの作成になったが、この後は「身に付けたい資質・能力・態度」を加える、前後の学年ではどうしたいかなどを考えてカレンダーを充実させていく。



＜作成したESDカレンダー＞



(3) まとめ

持続可能な開発目標（SDGs）は後半戦に入っている。

人間開発報告書 2021/2022 末尾にこのように書かれている。

「人間の部の改善に着手できれば、未来はどれほど不確実であろうとも、希望が危険を上回るという、あるべき姿に帰着するだろう。」

人としてSDGsを達成するための姿勢を参加者自身に考えさせると共に、ESDカレンダーを用いたSDGsで考えさせる学習への取り組みについて促した。

◎アンケート記入等（事務局） アンケート提出後、解散